

1月10日 日経新聞 1面に「廃棄ゼロ太陽光パネル」記事が掲載されました。

(要旨)

- ・カネカは早稲田大学などと共同して太陽電池セルの新たな固定方法を開発した。この技術を活用し2030年までに使用後に部品や素材から廃棄物が出ない太陽電池を開発する。
- ・新たな固定方法では、太陽電池セルとこれを保護するガラスや樹脂をハニカム(ハチの巣)状に加工した絶縁体で支える構造にすることで、電池セルとの背接触部分を減す。
- ・この技術を活用することにより、接着剤の使用量を大幅に削減できる。又、電磁波を用いて樹脂を溶かすことで数分で主要部品を破損なく取り出せるようになる。
- ・これにより、使用されている希少金属の再利用がしやすくなる。又、生産から廃棄までのエネルギー消費量を3分の1に減らせる。

(補足)

- ・現行の太陽光発電パネルの耐用年数は20年。現在使用されている太陽光発電パネルは2030年代半ばから廃棄が本格化する。廃棄物処理が大きな社会問題化する可能性があり、対策が求められている。